

新幹線を支える
イグチの銅合金インゴット

高品質を追求するイグチの銅合金地金は
鉄道架線金具に使用され、新幹線やJR
各線の安全運転のお役に立っています

株式会社 **イグチ**

〒554-0052 大阪市此花区常吉2-3-53
06-6460-2246 代表
FAX 6460-2355

青銅・リン青銅
アルミ青銅
美術青銅
鉛青銅
など各種

N700系
のぞみ
(時速300km)

日刊メタルレポート

発行所
株式会社 日刊金属新聞社
本社 大阪市城東区蒲生1-3-7
電話 (06) 6932-5443 代表
購読料 半カ年44,100円(前納) 3カ月22,050円

四月 国内の自動車販売が改善 自動車生産台数は二ケタ減

橋本金属 アルミ橋本健一郎氏リポート①

【概況】四月上旬前半は二月の独鈷工業生産が〇・五%増と予測の〇・三%増を上回った事による欧州懸念の後退や、チリ、コデルコの労働スト入りなどのプラス材料もあったが、三月のFOMC議事録で数名が金融緩和の終了時期について二〇一三年を想定しているとの報道や、ADP雇用統計の悪化などの米経済指標の不調を嫌気し、七、五一〇ドル(セツル)と前月最終価格より三二ドル下げての前半締めとなった。

後半は米新築住宅着工件数が七%増、鋳工業生産が〇・四%増と共に予測を上回った事や、ECBの利下げ観測など好材料もあったが、ポストンマソンの爆破事件によるセンチメントの悪化や、キプロスの金保有資産売却に伴う一、四〇〇ドル割れなどのマイナスマテリアルから一時六、八〇〇ドル台まで下落した。ただGW明けの五月七日現在、ECBの利下げ観測や米週間失業保険申請件数の減少、四月の雇用統計で失業率が七・五%と前回より〇・一%改善したことを好感し下げ幅を抑え、前半締めから三八八ドル暴落の七、一二二ドル、建値七十七万円のスタートとなった。

■前月の経済指標

◆自動車生産台数
日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比一六・四%減の八二万三、一四五台であった。

◆自動車販売台数
日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比二%増の二一萬三、一六五台。

(二面へ続く)

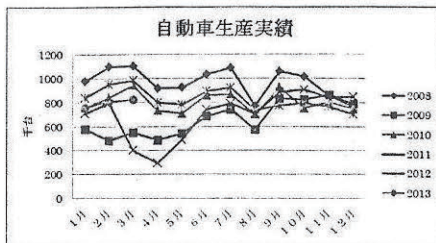
◆自動車生産台数

	1月	2月	3月
生産台数	75万4054台	86万8194台	82万3145台
前年比	-9.9%	-15.1%	-16.4%

◆自動車販売台数

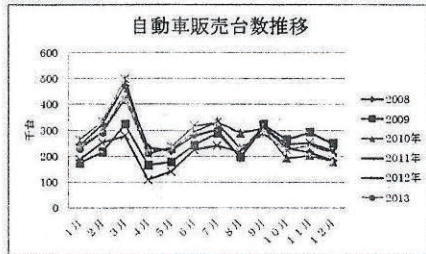
	2月	3月	4月
販売台数	29万2453台	42万69台	21万3165台
前年比	-12.2%	-15.6%	+2%

自動車生産実績



出典 日本自動車工業会

自動車販売台数推移



出典 日本自動車販売協会連合会

63S・D粉
銅・真鍮粉

(株) アイコー

代表取締役 宮本盛徳

東大阪市洪川町2-9-27

本社 (06) 4307-0600

三重県伊賀市西之沢162

伊賀アルミセンター (0595) 45-6510

新設住宅着工は七カ月連続増加

銅輸入は電気銅、スクラップとも減割高感

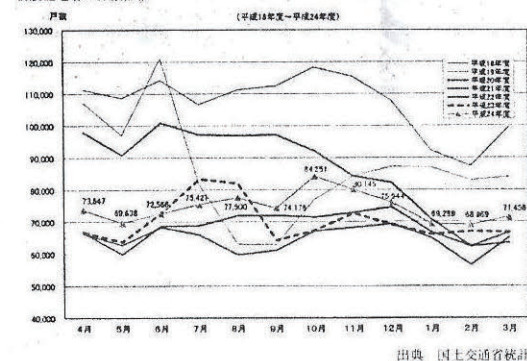
(二面より続く)

◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比七・三％増の七万、四五六戸であった。

	1月	2月	3月
新設住宅着工戸数	6万9289戸	6万8969戸	7万1456戸
前年比	+5%	+3%	+7.3%

新設住宅着工件数推移

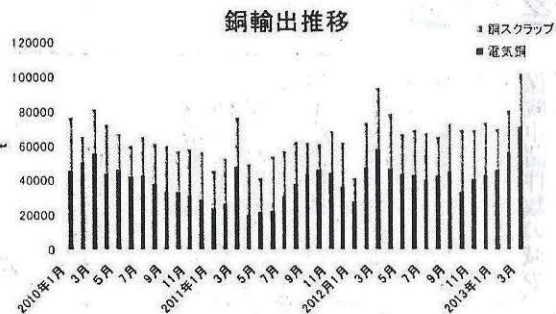


◆貿易関連指標

財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電気銅が二三％増の七万一千、スクラップが一四・二％減の三万〇、八四五。

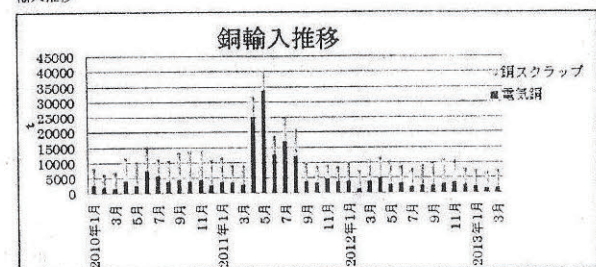
輸出	1月	2月	3月
電気銅	4万6323t	5万6285t	7万1千t
前年比	+65.1%	+19.7%	+23%
スクラップ	2万3477t	2万3956t	3万845t
前年比	+74.1%	-9.5%	-14.2%

輸出推移



輸入	1月	2月	3月
電気銅	2123t	1422t	1618t
前年比	-43.6%	+11.8%	-57.5%
スクラップ	5339t	5434t	5850t
前年比	-15.1%	-14%	-18.2%

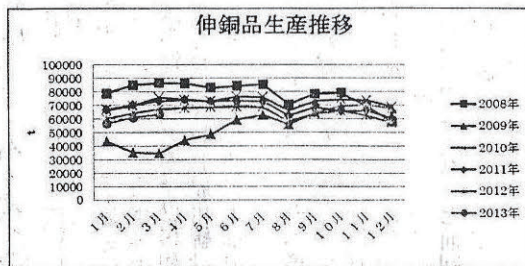
輸入推移



出典 財務省 貿易統計

【前月の国内指標】

日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、前年比五・三％減の六万三、四八〇t



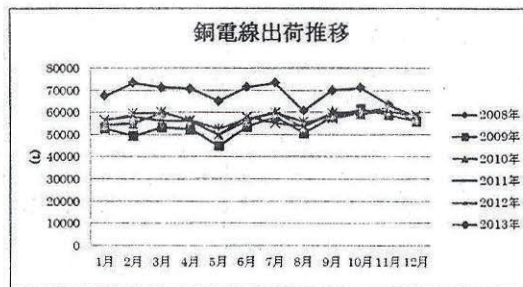
出典 日本伸銅協会

日本電線工業会発表の出荷速報(推定)は、前年比一・四％減の五万九、一〇〇tであった。(六面に続く)

銅相場 引き続き米中指標に一喜一憂へ

上値は七、六〇〇ドルを予測

(二面より続く)



【見通し】

四月は、米経済後退懸念に足を引っ張られた月となった。

FOMC議事録で金融緩和の終了時期について二〇一三年を想定しているとの報道やADP雇用統計の悪化、ボストンマラソン爆破事件によるセンチメントの悪化のため。

また直近の米週間失業保険申請件数の減少、四月の雇用統計で失業率が七・五%と前回より〇・一%改善したことから下げ幅は抑えられたものの、今後の米経済指標に注目。

自動車生産は前年比一六・四%減と二桁悪化の七カ月連続マイナス。輸出向け、国内共に二桁悪化。販売の方は前年比二%増とようやく回復の兆し。

新設住宅着工戸数は先月に続き七カ月連続増加の前年比七%増(季節調整済み前月比四・三%減)の七万一、四五六戸。唯一堅調な住宅関連。消費税アップ前の駆け込みなど今後の動向に注目。

伸銅品生産量は前年比五・三%減の六万三、四八〇tと五カ月連続マイナス。リーマンショック以来の低水準。

銅電線出荷量は、前年比一・四%減の五万九、一〇〇tと四カ月連続マイナス。うち建設、電販は四・五%増と二カ月連続プラス。自動車は一七%減の七カ月連続マイナス。自動車の減少幅の拡大が影響したとの見解。輸出に関しては、電気銅輸出が前年比二三%増の七万一千tと大幅増加。銅スクラップ

は一四・二%減の三万〇、八四五t。前月に続き、円安や自動車関連部品などの国内生産減少のため、輸出に向けられた影響との見解。

輸入は電気銅が五七・五%減の一、六一八t。スクラップは一八・二%減の五、八五〇t。

やはり前月に続き内需の弱さや大幅な円安による割高感から大幅減少。

銅需要に関して住宅関連は堅調なもの、今だ自動車は生産の先行きが不透明。ただ四月の国内販売台数がようやく前年比で二%増と改善してきたことから、アベノミクスによる新年度需要の増加なども期待でき、メーカーは買い気配になるのでは。

銅価格に関しては先月に続き、米中の経済指標に一喜一憂する事が予測される。

米金融政策に関しては金融緩和の早期終了観測が遠のいたものの週間失業保険申請件数や雇用統計、ADP雇用者数が全て良い可能性は現在では低い。

また過剰流動性資金が先月に続き、現在は株、国債、通貨に流れておりコモディティ(商品)への流入がみられないことから、上値は三月後半高値付近の七、六〇〇ドルを予測。下値は米経済指標の悪化から暴落したものの、六、八〇〇ドル台での下値の堅さを確認したとの判断から七、〇〇〇ドルを予測。銅建値に関しては七三・七九万円程度と予測している。

L M E 非鉄在庫 (5月8日発表分)

	入庫	出庫	5月7日現在	増減
銅	7,400	6,175	605,825	+ 1,225
G A W	0	0	0	± 0
G A C	7,400	6,175	605,825	+ 1,225
す ず	25	25	13,915	± 0
鉛	300	3,175	248,200	- 2,875
亜鉛	6,175	9,400	1,049,500	- 3,225
アルミ	0	17,750	5,142,325	- 17,750
二次合金	0	880	68,100	- 880
ニッケル	750	474	178,482	+ 276
アルミニウム二次(NASAA)	0	720	124,380	- 720

(単位: トン)